

政策 1

こころあたたかい福祉の里づくり

<政策の目的(目指す状態)>

互いに心が通い合い、支えあう地域社会の実現と、住んでよかったと思える町になる

■成果指標の達成状況

達成:● 達成率 80%以上:△ 達成率 80%未満:■

施策 No	施策	指標	達成状況		
			R3 年度	R4 年度	R5 年度
111	地域医療の充実	町内の医療機関を利用している町民の割合	●	●	●
		地域の医療環境が整っていると感じている町民の割合	●	△	●
112	健康づくりの推進	特定健診の受診率	■	△	△
		国保被保険者 1 人当たりの医療費	△	△	△
		健康だと思う町民の割合	△	△	●
		健康のために日頃何か心掛けている町民の割合	△	△	△
113	地域福祉の推進	地域全体で支え合う取組を行っていると思う町民の割合	△	△	△
		近所付き合いをしている町民の割合	△	△	△
		社会福祉協議会会員数	●	●	●
114	高齢者福祉の推進	生きがいは特にない高齢者の割合	■	△	■
		老人クラブ加入率(60 歳以上)	△	△	△
		適切な高齢者福祉サービスを受けられていると感じる町民の割合	●	●	●
115	障害者(児)福祉の推進	経済的に自立できない障害者の割合	●	●	●
		自力で外出ができない障害者の割合	●	△	△
		自力で家庭生活ができない障害者の割合	●	●	●
		特別支援学級在籍児童生徒受入数	●	●	●
116	子育て支援の充実	出生児数	●	■	△
		子育てしやすい町だと感じている町民の割合	●	△	△
		仕事と子育てが両立できていると思う町民の割合	●	●	△
117	人権尊重と人権意識の高揚	児童及び高齢者虐待、DVが人権侵害だと知っている町民の割合	●	●	●
		高齢者虐待件数	■	■	■
		児童虐待件数(要保護児童)	●	■	■

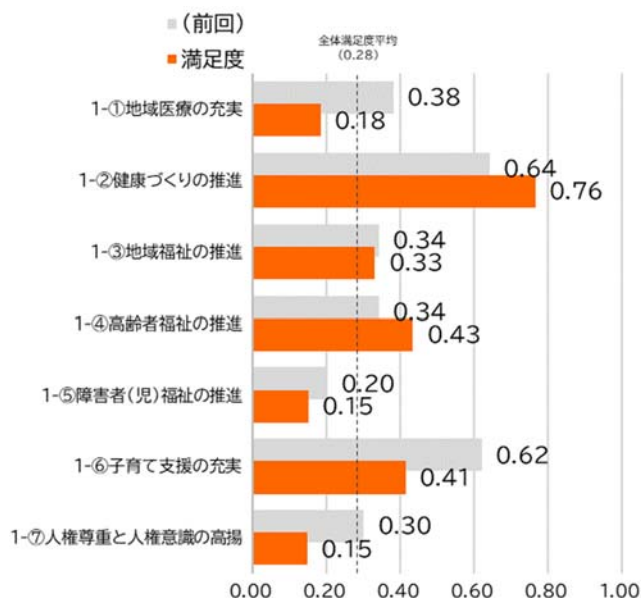
■施策ごとの取組

地域医療の充実	○ 令和 10 年の開業に向け新病院の建設を進めている。地域医療構想で課題となっている急性期の病床を新病院では削減とする。 ○ 医療機器も計画的に更新を行い、様々な診療ニーズに応えられるよう整備している。 ○ 全国的な医師・看護師不足により、医療スタッフの適正数確保が困難な状態ではあるが、施設基準は満たしている。 ○ 鏡野町在宅医療・介護連携事業推進協議会を中心に医療と介護の連携を図っている。
健康づくりの推進	○ コロナ禍による生活様式の変化により、一時的に社会活動が停滞したものの、次第にコロナ禍前に戻りつつある。R5 の健康づくりに取り組む町民の割合は目標値を少し下まわるが 97.1% と高い指数となっている。 ○ 特定健診は県内上位の受診率を維持しており、特定保健指導も集団健診と同時に行うこととしたため、飛躍的に受診率が向上した。
地域福祉の推進	○ 社会福祉協議会が中心になり、老人クラブ、地域づくり協議会、NPO、各種ボランティア団体などと連携し、それぞれの活動がなされている。 ○ 公民館単位のおたがいさま会議（小地域ケア会議）と住みやすい町づくり会議の自助・共助のシステム構築を目指し、地域に出向いて組織化を促しているが、達成は一部地域にとどまっている。 ○ 積極的な活動により、社会福祉協議会の認識度の向上につながっている。協議会員の増加を目指す、人口減少と高齢化により伸び悩みとなっている。
高齢者福祉の推進	○ 通いの場の提供として、町全域でハツラツサークル・サロンの開催に取り組み、在宅生活の支援のため医療・介護職員等が連携する協議会で介護予防等の課題について協議を行った。 ○ 「てごなかま」のボランティア活動制度や「ミニシルバー人材センター」により高齢者の社会参加を図った。 ○ 社会福祉協議会や地域包括支援センターと連携し、適切な高齢者福祉サービスが提供できるよう協議した。また、医療・介護事業所等の関係機関と連携し、包括的・継続的な在宅医療・介護サービスの周知と啓発に努めた。
障害者（児）福祉の推進	○ 令和 5 年 3 月に自立支援ネットワーク連絡会を立ち上げ、障害者を地域で支えるために協議や研修の場を設置。町内の就労継続支援 B 型事業所・商工会もメンバーに入っている。近隣の就労移行支援事業所・就労継続支援等も利用可能。 ○ 総合福祉課を中心に、子育て支援課、健康推進課、学校教育課、社会福祉協議会等と連携し、切れ目ない支援体制の構築を目指している。

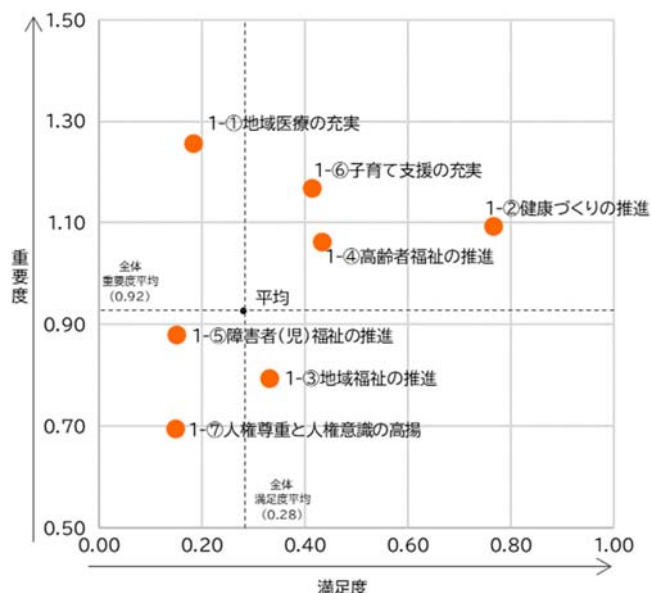
子育て支援の充実	○ 令和3年度から子育て世帯包括支援センター、令和6年10月からは、こども家庭センターにおいて、専門職を中心に、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援に努めた。 ○ 産後ケア事業、子育て世帯訪問支援事業、出産・子育て応援事業等の実施、おむつ代助成事業、児童手当等の拡充により子育て支援サービスの充実に努めた。 ○ 保護者の保育ニーズに対しては、特に3歳未満児に待機児童が発生している。 ○ 令和4年に子ども家庭総合支援拠点を設置し、要保護児童対策地域協議会と連携し、児童福祉の観点から必要な支援に努めた。令和6年度からはこども家庭センターにおいて、専門職を中心に、児童虐待、特別な配慮が必要なこどもや様々な課題を持つ家庭への支援を行っている。 ○ 令和6年度から子ども第三の居場所事業を実施し、社会的擁護の必要性が高いこどもを支援する体制づくりに努めている。 ○ 子育て支援センターにおいては、コロナ禍で人が集まることが難しい中、工夫しながら行事を実施した。コロナの5類移行後は、徐々に利用者が増えている。令和4年には、生涯学習課の家庭共育支援チームの活動を子育て支援センターでもできることとし、子育ての悩みを抱える保護者の情報交換、交流の場の充実に努めた。
人権尊重と人権意識の高揚	○ 児童・高齢者虐待・DV が人権侵害だと理解している町民の割合は 9 割強で推移しており、人権教育について一定の成果が認められる。 ○ 人権講演会や小中学校での人権教育を通じて、町民の人権侵害に対する啓発を図り、啓発活動の一定の成果があった。 ○ 関係機関との連携を強化し、虐待やいじめの早期発見・早期対応に努めている。令和2(2020)年4月鏡野町権利擁護センターを開設、令和6(2024)年10月鏡野町こども家庭センターを設置している。

■住民アンケートによる評価

満足度係数の変化



満足度・重要度ポートフォリオ



<アンケート等からみえる状況>

- 「健康づくりの推進」については、全施策の中で最も満足度の高い項目となっている。
- 「地域医療の充実」「子育て支援の充実」「人権尊重と人権意識の高揚」は前回調査時の満足度に比べて大きく減少している。
- 重要度が高いにも関わらず、満足度が低い“重点改善項目”として「地域医療の充実」が挙げられている。
- 鏡野町環境として“良い”項目として、「子育て支援」「子育て環境」がそれぞれ上位3番目、5番目に挙げられている。(報告書 P14、問 6(1))
- 鏡野町環境として“悪い”項目として、「保険・医療環境」が上位5番目に挙げられている。(報告書 P16、問 6(2))
- 具体的に不安を感じている項目として、「自分や家族の健康」が上位3番目に挙げられている。(報告書 P18、問8)
- 今後も鏡野町に住み続けるために必要なこととして、「病院や診療所、薬局など医療施設」「介護や福祉サービス施設」がそれぞれ上位2番目、4番目に挙げられている。(報告書 P20、問9)
- 必要な高齢者支援について、「自宅の医療・介護サービスの充実」が最も高くなっている。(報告書 P22、問 10)
- 子育て世帯が住みやすいまちにするために必要なことについて、「子育てをする上での、働き方の見直しと働く環境の改善」が最も高くなっている。(報告書 P24、問 11)
- 必要な障害者(児)施策について、「就労支援を行う」が最も高くなっている。(報告書 P27、問 12)
- 今の生活で使いやすくしてほしいことについて、「子どもや高齢者の見守り・居場所の検索」が上位4番目に挙げられている。(報告書 P32、問 15)
- 必要な地方創生施策・人口減少対策について、「地域医療の充実」「子育て・教育環境整備」がそれぞれ上位1番目、2番目に挙げられている。(報告書 P45、問 22)

■課題の整理

地域医療の充実

<5年前(後期計画策定時)の課題>

- 安定的な医師、看護師確保の対策
- 住民に身近な鏡野町国民健康保険病院の存続と充実を図るための経営改革実施
- 地域内医療機関の連携と医療(診療)体制の整備
- かかりつけ医師(医院)確保の推進
- 医療設備及び機器の計画的な更新
- 在宅医療を進めるうえで必要な医療・介護従事者(多職種)の連携強化
- 鏡野町国民健康保険病院は 30 年以上が経過し、設備、医療機器等の老朽化が顕著であり、今後の改修、更新による費用の増大

	<解決した課題> ◎ 医療機器は計画的に更新しており、様々な診療ニーズに応えられるよう整備している。 ◎ 在宅医療、介護連携事業推進協議会により連携の強化が図られている。 ◎ 新病院の令和 10 年度開業に向け、計画を進めている。 <新たな課題のたね> ● 「地域医療の充実」は前回調査時の満足度に比べて大きく減少している。 ● 住民からは、地域医療の充実が特に求められており、重点改善項目として、重要度が高いにも関わらず満足度が低い項目となっている。 ● 人口減に伴う医業収入減の中での病院経営維持。 ● 医師の高齢化と後継者不足による医療資源の不足
健康づくりの推進	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 特定健診受診率の向上と町民の健康に対する意識の高揚 ■ 各種健診の受診率向上 ■ 健康寿命の延伸と健康格差の縮小 ■ 生活習慣病予防の理解向上と、疾病の早期発見、早期治療及び社会環境の改善 ■ 予防接種の助成を継続し、接種率を向上 ■ 乳幼児健診の拡充と育児指導の強化 ■ 健全な食生活の知識の普及 ■ 運動習慣の知識普及と運動のための環境創出 <解決した課題> ◎ 住民の健康に対する意識の高揚については、おおむね高い指数となっており、特定検診の受診率も県内で上位となっている。 ◎ 新たに、带状疱疹や新型コロナウイルスの予防接種にも助成を行っている。 ◎ がん患者に対し、医療用ウィッグ等の購入費用の一部を助成している。 <新たな課題のたね> ● 住民の不安なこととして、「自分や家族の健康」が挙げられており、特に高齢者に多いものの、若い世代でも4割程度の回答となっている。 ● 健診未受診者(特に 20、30 歳代)の受診勧奨のアプローチ方法が課題である。
地域福祉の推進	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 地域コミュニティ活動の充実とお互いが支えあえるネットワークづくりの推進 ■ 児童・生徒に対する福祉教育の推進 ■ 福祉を担う専門的人材の育成・確保 ■ ボランティア、NPO の育成と活動支援 ■ 安心して暮らしていける生活環境基盤の整備

	<解決した課題> ◎ 一部の地域については、小地域ケア会議や住みやすい町づくり会議等の組織化が進んだ。 <新たな課題のたね> ● アンケートでは、より暮らしよくするために「子どもや高齢者の見守り・居場所の検索」が上位に挙げられており、地域連携による関係性の構築を維持していく必要がある。 ● 人口減少や高齢化が顕著なため、今後さらなる地域連携の構築や活動の充実が必要。 ● 高齢化に伴う地域のリーダー人材不足。 ● 社会福祉協議会の認知度は上がっているものの、人口減少・高齢化に伴う会員不足は継続している(特に中心部である鏡野地域での会員充足が課題)。
高齢者福祉の推進	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 生涯にわたる健康づくりと介護予防の仕組みづくり ■ 地域包括ケアシステムの確立 ■ 住み慣れた地域で安心して暮らせる地域支援サービスの構築 ■ 将来にわたって持続できる介護・福祉と支えあいの地域づくり ■ 地域密着型サービス事業所の指導にあたり、町職員の専門的な知識の取得 ■ 在宅で生きがいのある生活を送るための、高齢者の交通手段の確保 <解決した課題> ◎ 関係機関連携等による課題解決のための協議を進め、地域ケア会議の体制が一部進んだ。 ◎ 町職員は施設指導の経験を重ね、専門知識を継承し知識を取得している。 ◎ 高齢者等タクシー助成事業を開始し、高齢者の交通手段確保に寄与した。 <新たな課題のたね> ● アンケートでは、必要な高齢者施策として、「在宅の医療・介護サービスの充実」が求められている。 ● 通いの場の開催を促す地域の担い手と開催場所までの交通手段が不足している。 ● 地域の会議体の構築が一部地域に留まっている。
障害者(児)福祉の推進	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 障害者のニーズを踏まえ、障害者の日常生活を地域住民が支える仕組みの充実 ■ 障害者に対する、地域や事業所の理解促進 ■ 障害児に配慮した自立訓練施設や就労支援施設などの整備 ■ 障害者の自立を支援する相談支援体制の充実 ■ 成人期の発達障害・引きこもり支援の充実 ■ 障害児通所サービスの利用希望の増加に対応できる受け皿の確保 <解決した課題> ◎ 自立支援ネットワーク連絡会を立ち上げ、連携や協議の場は拡大している。 <新たな課題のたね> ● 「障害者(児)福祉の推進」の施策は比較的満足度の低い項目となっている。 ● アンケートでは、必要な障害者(児)施策として、「就労支援」が求められている。 ● 8050問題、障害者の子育て・介護の問題、不登校・ひきこもり等、様々な問題が絡み合った家庭に対する重層的支援体制を整備していく必要がある。

子育て支援の 充実	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 発達障害児(者)の対応について、地域支援体制の確立 ■ 子どもの健康問題や子育て環境が複雑化する中での支援策の充実 ■ 保健・教育・医療・福祉との課題共有と連携強化 ■ 保育園や幼稚園、児童クラブ等保育の現場における人材確保 <解決した課題> ◎ 令和4年度に機構改革により子育て支援課を創設、児童福祉、母子保健、教育・保育分野を一元的に管理する体制を整えた。 ◎ こども家庭センターを設置し、保健師、臨床心理士、社会福祉士(SSW)、理学療法士などの専門職により、多様化、複雑化する課題について連携して支援する体制の充実を図った。 ◎ 支援が必要な子どもや家庭などの情報は、速やかに保健、教育、医療、福祉その他の関係部署と共有し、適切な支援につなげている。 <新たな課題のたね> ● アンケートなどからも鏡野町は「子育てしやすいまち」のイメージが定着していることがうかがえるが、今後の地方創生・人口減少対策を鑑みても力を入れていくべき項目といえる。 ● 子育て世帯が住みやすいまちにするために、保護者の育児休業取得、短時間勤務、テレワークなど、子育てを支援する働き方や職場環境を推進する必要がある。 ● 共働き家庭やひとり親家庭の増加、働き方の多様化などに対応するため、3歳未満児の受入れや国が進める乳児等通園支援事業の実施に向けて、新たな体制を整える必要がある。 ● こどもの居場所、親子の居場所、こども食堂などにより、子どもや子育て中の保護者を地域で支える仕組みづくりが必要である。 ● 子どもや子育て家庭の状況と、取り巻く環境が多様化、複雑化する中で、相談支援体制の充実や、適切な親子関係構築の支援をしていく必要がある。 ● 県北の保育士養成校が減少し、保育士等の子育てを支える専門職の確保がますます厳しくなっている中で、必要な人材確保に努める必要がある。
人権尊重と 人権意識の高揚	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 多様化する人権問題に対応した町民への人権教育の推進 ■ 虐待防止のネットワーク強化 ■ 総合的な相談窓口の充実 <解決した課題> ◎ 人権侵害に関する項目について一定の知識や認識が持たれるようになっている。 ◎ 権利擁護センターが開設され、連携体制の土壌が整備された。 <新たな課題のたね> ● アンケートでは、「人権尊重と人権意識の高揚」の施策は比較的満足度の低い項目となっている。 ● 「人権尊重と人権意識の高揚」は前回調査時の満足度に比べて大きく減少している。 ● 児童虐待について、こども家庭センターを核とし、児童相談所や教育機関等との連携の強化が必要。

<政策の目的(目指す状態)>

誰もが能力を発揮していきいきと働くことができ、経済的にも豊かな町になる

■成果指標の達成状況

達成:● 達成率 80%以上:△ 達成率 80%未満:■

施策 No	施策	指標	R3 年度	達成状況 R4 年度	R5 年度
221	農業の振興	認定農業者数	△	●	△
		新規就農者	●	●	●
		集落営農組織数	●	△	△
		農地集積面積(認定農業者)	△	△	●
222	林業の振興	認定林業事業体の林業現場作業職員数	●	●	●
		素材生産高	●	●	●
		間伐実施面積(県民局資料)	△	■	■
223	水産業の振興	養殖者数(ひらめ)	●	●	●
		稚魚養殖匹数(ひらめ)	△	△	■
		商工会会員事業者数	●	●	●
224	商工業の振興	工業事業所出荷額	△	△	●
		法人町民税額	△	●	△
		町内での買い物が便利だと感じている町民の割合	△	●	●
		観光入込客数	△	●	△
225	観光の振興	延べ宿泊客数	△	●	■
		町主催観光イベント来場者数	■	■	●

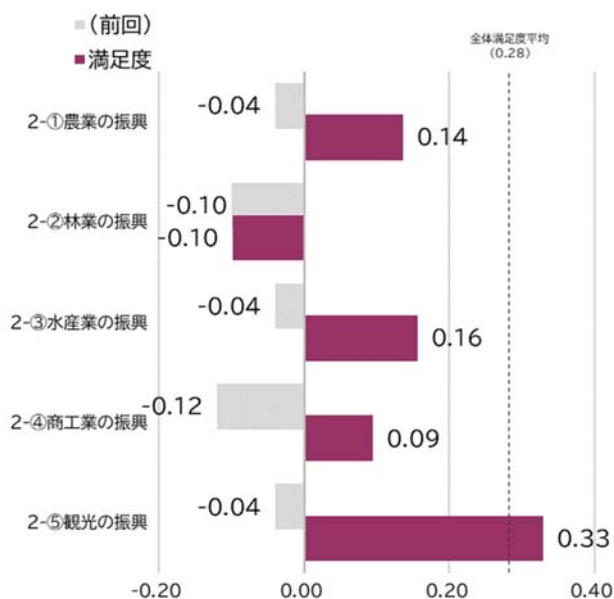
■施策ごとの取組

農業の振興	○ 経営改善指導を行うことで、認定農業者の5年更新が行えている。新規就農者については、就農相談を行うなど確保に向けた取組を行った。また、認定農業者が新規で農地集積を行った場合に補助をし荒廃農地の抑制を行った。
	○ 経営体の強化については、集落営農組織が13組織と現状維持となっている。地域の高齢化が進み離農する農家が増えているが、集落営農組織が新規で集積を行い、農地維持を図っている。
	○ 人・農地プランから地域計画へ変更し計画の作成を行った。
	○ 商品開発などを継続的に行った。各種団体に対してイベントや講座などの案内を周知した。
	○ 防護柵の設置については、集落全体を囲う地域柵の設置支援及び単独町費補助による電気柵等の設置の支援を行うとともに、ドローンを活用した捕獲活動の支援や、捕獲補助金の交付など有害鳥獣駆除の強化に努めてきた。
林業の振興	○ 搬出間伐を中心とした森林整備を進め、積極的な木材生産に取り組み、森林保全を推進した。
	○ 公共施設、木造住宅への県産材、特に町産材利用を積極的に推進した。
	○ 森林経営管理制度に関する事務や木材生産・利用拡大を図るために総合窓口として、森林づくりセンターを新規に設置した。
	○ 岡山県、森林組合などの林業事業体と人材の確保、育成に向け、連携して取り組んだ。

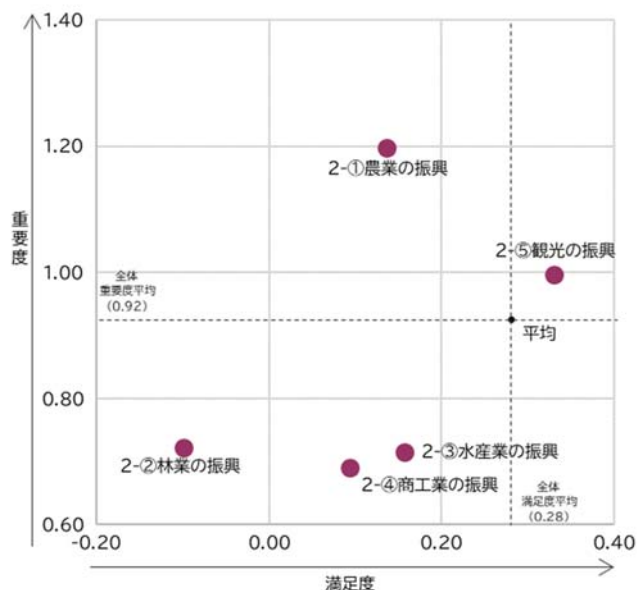
水産業の振興	○ 水産業ICT支援事業、通報装置の設置を行い、水の停止などによる事故の防止、生産者の負担の軽減を図った。 ○ 町内でのイベントには、ひらめの炭火焼きなどで特産品としての提供を行った。「ユズひらめ」の試験飼育など新たな試みも行われた。 ○ 学校給食にも提供し、未来を担う子供たちに特産品としてのひらめをアピールした。
商工業の振興	○ 小規模事業者経営改善資金利子補給制度及び工業設備資金利子補給制度に基づく利子補給や起業者支援補助制度など、中小企業者向けの制度により支援策の拡充を図った。また、新型コロナウイルス感染症の影響による事業者支援として令和2年度に特別利子補給制度を新設し事業者を支援した。 ○ 大阪府茨木市にある鏡野町アンテナショップ「夢広場」をはじめ、町内物産施設などで定期的にイベント等を行い、町内の魅力ある商品の PR を行うとともに、物販施設の集客に努めたが、令和 6 年 11 月末に運営事業者の撤退により、鏡野町アンテナショップは閉館になった。 ○ 商工会と連携し、市場ニーズを把握し、町内事業者のデジタル化の推進を行った。
観光の振興	○ 「かがみのたびとくらし」HPを充実させ、鏡野の魅力を全国に発信した。また、季節毎の魅力を発信する季刊パンフレットの作成や SNS による一体的な情報発信を始め、観光局と連携しプロモーションを実施した。 ○ 町内の主要観光施設の修繕や改修など設備投資を積極的に行い、サービス向上による誘客促進を図った。アドベンチャーツーリズムを推進し、町内の多様な宿泊への誘客に取り組んだ。 ○ 鏡野町ならではの自然アクティビティ体験プランなどの造成を行った。また、観光局による観光関係者向けの研修等を行い、受入環境の充実を図った。

■住民アンケートによる評価

満足度係数の変化



満足度・重要度ポートフォリオ



<アンケート等からみえる状況>

- 産業分野について、「観光の振興」を除いて、すべての項目で比較的満足度が低くなっている。特に「林業の振興」は満足度がマイナス(不満寄り)となっている。
- 「農業の振興」「水産業の振興」「商工業の振興」「観光の進行」については、前回調査時の満足度に比べて大きく増加している。
- 重要度が高いにもかかわらず、満足度が低い“重点改善項目”として「農業の振興」が挙げられている。
- 鏡野町の環境として“良い”項目として、「自然環境」は最も高い項目であり、その環境維持のため、農業や林業の振興が深くかかわっていると考えられる。(報告書 P14、問 6(1))
- 鏡野町の環境として“悪い”項目として、「働く場」が最も高い項目となっている。若者や働き手が求める仕事に十分ではないことが考えられる。(報告書 P16、問 6(2))
- 具体的に不安を感じている項目として、収入に関する項目が上位に挙げられており、収入のある仕事に就くことや高齢になっても働き続けられる環境が重要であると考えられる。(報告書 P18、問8)
- 今後も鏡野町に住み続けるために必要なこととして、「買い物ができる施設」が上位3番目に挙げられている。(報告書 P20、問9)
- 必要な地方創生施策・人口減少対策について、「観光・交流の推進」「農林漁業の振興」がそれぞれ上位4番目、5番目に挙げられている。(報告書 P45、問 22)

■課題の整理

農業の振興	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 農地荒廃化の抑制 ■ 集落営農組織の組織強化と人材育成 ■ 新規参入(認定農業)者に対する支援 ■ 農業者所得増大のための6次産業化などの推進 ■ 有害鳥獣による被害の対策 ■ 農業者の高齢化と米価低迷による離農 ■ 人・農地プランの具体化への支援 ■ 園芸作物への転換による高収益化 <解決した課題> ◎ 6次産業化による新商品開発などを継続的に行った。 <新たな課題のたね> ● アンケートでは、特に重点改善項目として、「農業の振興」が重要度が高いにも関わらず満足度が低い項目となっている。 ● 新たに開発した商品の需要の掘り起こしと安定した供給。 ● イノシシについては、頭数が減少してきているが、ニホンジカの頭数及び被害が増加している。
林業の振興	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 山林荒廃化の抑制と手入れ不足の森林の適切な整備 ■ 森林組合等の林業関連団体の支援と協働による林業者の育成 ■ 森林の持つ水源かん養、災害防止、環境保全機能などの発揮 ■ 低炭素社会実現のための木材や森林資源の活用推進 ■ 木材需要拡大施策の充実 ■ 人材の確保と定着及び新規就業者、林業事業者に対する経済・技術支援 <解決した課題> ◎ 貯木場の整備によって、木の学習机やファーストイの無償提供など町産材利用促進に大きな効果が出ている。 <新たな課題のたね> ● アンケートでは、自然環境が鏡野町の“良い”ところとして最も高くなっており、山林を保護・維持する意味でも林業を継続していく必要がある。 ● 人材不足、木材価格の低迷、シカ被害対策等にコストがかかることから皆伐、再造林が進んでいない。 ● 住宅着工数及び住宅構造による木材利用量が減少しており、木材利用促進が停滞している。
水産業の振興	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 水産業後継者の育成と生産高の向上 ■ 新たな調理法の研究による、町独自ブランドの開発と消費者への知名度アップ ■ 官民一体となった、販路拡大の推進 ■ 生産組合の組織強化と新たな担い手の確保により、後継者不足による事業存続危機からの脱却 ■ 養殖場への土砂流入等の自然災害に伴い、養殖魚が酸欠死するリスクへの対応

	<解決した課題> ◎ 学校給食への提供による子どもたちへの PR。 <新たな課題のたね> ● 従事者の高齢化。
商工業の振興	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 商工会の活性化と商工会会員事業者数の維持、拡大 ■ 経営者の意識改革や後継者の育成に対する支援 ■ 農林水産業や観光資源などの特色を活かした商業及び地場産業の推進 ■ 賑わいの創出(道の駅や夢広場などを使った市の開催) ■ 商工業者に対する融資・斡旋の強化 ■ 企業交流会を通じた事業者間の情報交換の促進 <解決した課題> ◎ 市場ニーズを把握し、町内事業者のデジタル化を推進した。 <新たな課題のたね> ● アンケートでは、今後も鏡野町に住み続けるために必要なこととして、「買い物ができる施設」が上位3番目に挙げられており、買い物等の利便性向上が今後の定住や人口維持に直結するものと考えられる。 ● 事業者の高齢化が進むことによる後継者の育成や人口減少に伴う人材不足が課題。 ● 既存の特産品や新たな商品の販路拡大が必要。 ● 買い物環境の充実や更なるデジタル化を進める必要がある。
観光の振興	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 既存の観光資源などを活用した魅力あるかがみのブランドの開発提供 ■ 町内の観光資源を活かした、着地型観光プランの創出と整備の強化 ■ 観光ガイドの資質向上と町民のおもてなし意識の醸成 ■ グリーンツーリズムによる都市部との交流推進と、滞在型観光戦略の展開 ■ 町内観光事業者が実施する事業へのバックアップ ■ 町内観光施設の老朽化への対応 <解決した課題> ◎ 町内の主要観光施設の修繕や改修など設備投資を積極的に行った。 ◎ アドベンチャーツーリズムを推進し、町内の多様な宿泊への誘客促進を実施した。 ◎ 観光局による観光関係者向けの研修等を行い、受入環境の充実を図った。 <新たな課題のたね> ● アンケートでは、産業分野の中でも「観光の振興」の満足度は高く、成果が住民に伝わっていることがわかる。 ● 効果的な情報発信や更なるデジタル化の推進が必要。 ● 鏡野町ならではの自然を生かしたアクティビティプランの提供が必要。 ● 体験者を宿泊へ繋げる取組が必要。

<政策の目的(目指す状態)>

生涯にわたる学習活動を行い、交流と活気と元気が生まれる町になる

■成果指標の達成状況

達成:● 達成率 80%以上:△ 達成率 80%未満:■

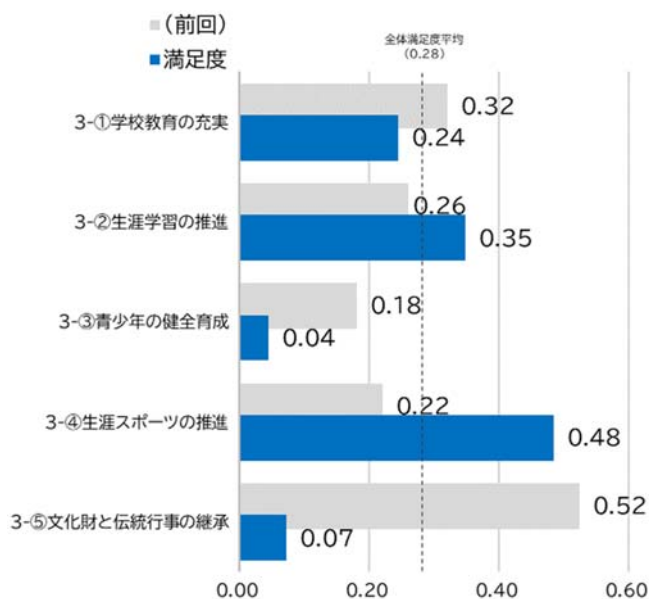
施策 No	施策	指標	R3 年度	達成状況 R4 年度	R5 年度
331	学校教育の充実	学校生活が充実していると答えた児童の割合	●	△	●
		学校生活が充実していると答えた生徒の割合	△	●	●
		全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との差(児童)	■	■	■
		授業以外で平日1時間以上勉強する生徒の割合	●	●	■
332	生涯学習の推進	何らかの学習活動を行っている町民の割合	●	●	△
		公民館講座受講者数	■	△	△
333	青少年の健全育成	検挙された非行少年数	■	■	●
		青少年の不良行為件数	●	●	●
		青少年が健全に育っていると感じている町民の割合	●	●	■
		何らかの運動、スポーツを行っている町民の割合	●	●	●
334	生涯スポーツの推進	週一回以上運動・スポーツを行っている町民の割合	△	△	●
		保存・継承されている文化財の数	△	△	△
335	文化財と伝統行事の継承	伝統行事や文化活動に参加している町民の割合	△	△	△
		文化等を後世に伝承すべきと思っている町民の割合	△	△	△

■施策ごとの取組

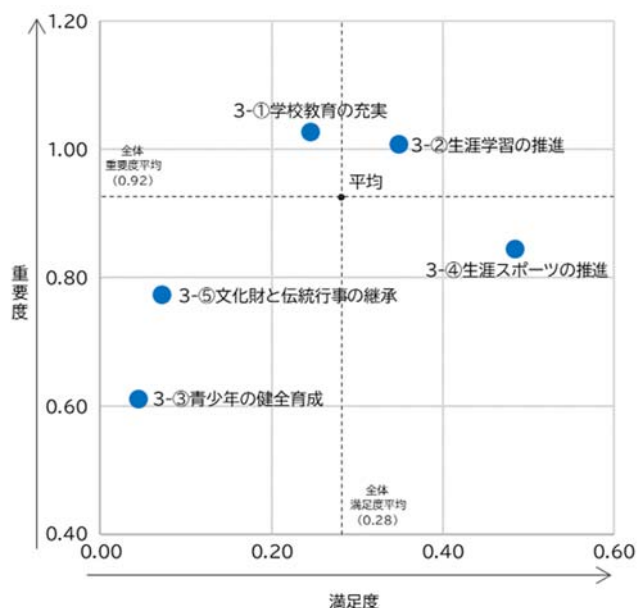
学校教育の充実	○ 学力向上推進委員会において、各学校の弱みを分析し「学力向上改善プラン」に基づいた学習指導を進めたが、学力学習状況調査は、目標に達成しておらず、県、全国よりは低い平均正答率となった。 ○ 各学校の普通教室等へ電子黒板を設置すると共に ICT 支援員1名が各学校を巡回し、ICT 教育の推進に努めた。いじめや不登校等の対応については、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーが解決に向け、相談対応を行った。 ○ 特別な支援を要する児童生徒には、町費で支援員の配置を行った。
生涯学習の推進	○ 町文化協会や関係団体との連携を図りながら、学習活動を継続して行っている。 ○ 公民館の自主講座、主催講座ともに子どもから高齢者まで年代に応じた新講座の設立、講座内容の充実等を行い、新規受講者も増加傾向にあった。 ○ 老朽化した公民館は順次改修した。
青少年の健全育成	○ 平成 30 年度に家庭共育支援チーム「ぼちぼち」を結成し、子育てに限らず色々相談できる座談会を定期的に継続して実施した。 ○ 親育ち応援プログラムを推進し、学校、保育園で実施した。 ○ 県指定、町指定の民俗文化財となっている行事には独自の補助を行い、郷土への関心や愛着の向上を図っている。 ○ 学校との連携に関しては、地域学校協働活動事業により町内全小・中学校に地域学校協働活動推進員を置き、農業体験や昔遊びなどを通じて郷土への関心を持ってもらう活動を行った。 ○ おかやま子ども応援事業による「放課後子ども教室」を実施した。また、公民館講座でも子どもを対象とした講座を充実した。スポーツ少年団も、継続して活動しており、子どもたちの可能性を広げられるよう推進を行っている。 ○ 中学校において、薬物乱用防止、喫煙防止教室を継続して実施した。町の青少年健全育成協議会等の関係機関と連携をはかり、青少年をとりまく問題に対応している。
生涯スポーツの推進	○ スポーツ推進委員を中心としてニュースポーツの普及が行えており、年々ニュースポーツ指導依頼が増加傾向にあり、町民のスポーツへの関心は高まっている。 ○ スポーツ協会内の各部において日々活動を続けられており、スポーツ活動を通じた健康と交流の促進が行われている。 ○ 指定管理制度を利用し、体育施設の管理運営を行っている。照明設備の LED 化を計画的に進めている。また、利用者のニーズに答えながら定期的に修理、改修を行っている。
文化財と伝統行事の継承	○ 保存会が行う道具の修繕や記録保存、広報に対して支援を行った。 ○ 公民館講座や博物館体験講座等を開催し、町内の文化財や文化に触れる機会を設けた。 ○ 町内の文化財について情報収集を行い、保護・保存のための支援を行った。 ○ 文化財保護審議会等で保護措置について検討を行った。

■住民アンケートによる評価

満足度係数の変化



満足度・重要度ポートフォリオ



<アンケート等からみえる状況>

- 教育・文化分野について、「生涯学習の推進」「生涯スポーツの推進」を除いて、比較的満足度が低くなっている。
- 「青少年の健全育成」「文化財と伝統行事の継承」については、前回調査時の満足度に比べて大きく減少しており、「生涯スポーツの推進」は大きく増加している。
- 教育・文化分野の中では「学校教育の充実」「生涯学習の推進」に関する重要度が高くなっている。
- 特に重要度が高いにも関わらず、満足度が低い“重点改善項目”として「学校教育の充実」が挙げられている。
- 子育て世帯が住みやすいまちにするために必要なことについて、「小・中学校の学力向上の取組の強化」が上位4番目に挙げられている。(報告書 P24、問 11)

■課題の整理

学校教育の充実	<5年前(後期計画策定時)の課題>	
	■	確かな学力の向上への取組強化、家庭学習習慣の定着
	■	ICT 環境の整備、教員の指導力向上
	■	豊かな心と健やかな身体の育成
	■	児童・生徒の確かな学力と学習意欲の向上
	■	小中連携教育の推進と、情報教育・国際理解教育の充実

	<解決した課題> ◎ 令和4年度末に香北小学校、富小学校、上齋原小学校を閉校し、令和5年度から香北小学校は香々美小学校へ富小学校は奥津小学校へ統合を行った。 ◎ 令和5年度に鶴喜小学校の大規模改修を行い、児童及び教職員の安全安心に努めた。 ◎ 令和6年度に鏡野中学校の改修工事を行い、生徒及び教職員の安全安心に努めた。 ◎ 学力向上については、「学習習慣の形成」と、「書く力・伝える力の育成」の2つの方針のもと、各校全職員で家庭学習の定着に向け、自主学習の励行を継続して実施している。 ◎ 各学校の普通教室等へ電子黒板を設置するとともに ICT 支援員1名が各学校を巡回し、ICT 教育を推進した。 ◎ 各校の状況に応じて町費講師等の加配を行い、児童及び生徒の個々のニーズにあったきめ細かい支援を継続して実施している。 ◎ 特別な支援を必要とする児童生徒に対し、子育て支援課、学校教育課の専門職、学校、関係機関とも連携し、把握や対応に努め、解決に向け取り組んでいる。 <新たな課題のたね> ● アンケートでは、重点改善項目として、「学校教育の充実」が重要度が高いにも関わらず満足度が低い項目となっている。 ● 子育て世帯が住みやすいまちにするために「小・中学校の学力向上の取組の強化」が上位に挙げられており、若い世代にとって重要な項目であると考えられる。 ● 小中学校での家庭学習習慣の定着や質問を読み解く力、応用問題を解く力が課題。 ● 電子黒板やタブレットを活用した授業の定着が必要。
生涯学習の推進	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 多様化する町民の学習意欲に対応できる推進体制の構築 ■ 町民ニーズに対応した学習プログラムの検討 ■ 複合的な機能を備えた生涯学習施設や公民館の機能の充実の検討 ■ 地域において学習成果を活用するための核となる人材の育成 <解決した課題> ◎ 子どもから高齢者まで年代に応じた新講座の設立、講座内容の充実等を行い、新規受講者も増加傾向。 ◎ 老朽化した公民館は順次改修している。 <新たな課題のたね> ● 町文化協会における会員の高齢化が顕著。
青少年の健全育成	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 郷土を愛する心の育成 ■ 青少年の規範意識の向上 ■ 青少年自身による基礎的な生活習慣の確立 ■ 豊かな心を育む教育の充実 ■ 地域全体で青少年の教育を支える仕組みづくり

	<解決した課題> ◎ 家庭共育支援チーム「ぼちぼち」を結成し、子育てに限らず色々相談できる座談会を定期的に継続して実施。 <新たな課題のたね> ● 「青少年の健全育成」については、前回調査時の満足度に比べて大きく減少している。 ● アンケートでは、満足度も重要度も比較的低く、取組や必要性が住民に理解されていない可能性がある。 ● 地域行事を継続していくための若年人口が減少している。 ● SNS を使った犯罪等、様々な社会変化に対応していく必要がある。
生涯スポーツの推進	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ それぞれの年齢や体力に応じたスポーツ活動が行える環境整備 ■ 各スポーツ施設の整備・改修及び管理運営の充実 ■ 各種スポーツ団体や指導者の育成・支援 <解決した課題> ◎ スポーツ推進委員会を中心としてニュースポーツの普及を行い、年々ニュースポーツ指導依頼が増加傾向。 ◎ スポーツ施設利用者のニーズに答えながら定期的な修理、改修を行っている。 <新たな課題のたね> ● 老朽化の進んだ施設も多く、計画的な改修、修理が必要。
文化財と伝統行事の継承	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 町内全体の文化財や地域文化の調査と有効活用 ■ 文化財や地域文化の保護に関する地域住民の理解 ■ 地域文化の継承に向けた教育の充実や地域の連携・強化 ■ 地域文化の継承のための後継者の育成 ■ 歴史的資料である収蔵品の保管・管理 <解決した課題> ◎ 公民館講座や博物館体験講座等を開催。 ◎ 町内の文化財についての情報収集。 <新たな課題のたね> ● アンケートでは、満足度も重要度も比較的低く、取組や必要性が住民に理解されていない可能性がある。 ● 「文化財と伝統行事の継承」については、前回調査時の満足度に比べて大きく減少している。 ● 高齢化による伝統文化の継承者不足。 ● 高齢化や町外転出により、個人が所有している文化財の維持・管理が困難。

<政策の目的(目指す状態)>

人と自然が調和・共生した、快適で安心して暮らすことができる町になる

■成果指標の達成状況

達成:● 達成率 80%以上:△ 達成率 80%未満:■

施策 No	施策	指標	達成状況		
			R3 年度	R4 年度	R5 年度
441	消防の推進	火災発生件数	■	■	●
		出動回数	■	■	●
		出動人員	■	■	■
		消防団の定数に対する充足率	△	●	●
442	防災対策の推進	自主防災組織組織率	●	●	△
		日頃から防災の備えをしている町民の割合	△	△	■
		災害時における必要備蓄食料の目標備蓄量の割合(行政備蓄の割合)	△	●	●
		町内の交通事故発生件数	●	●	△
443	交通安全・生活安全対策の推進	町内の交通違反件数(三悪件数無免許、飲酒、悪質な速度超過)	△	●	●
		町内の犯罪発生件数	●	●	△
		犯罪被害にあう不安を感じている町民の割合	●	△	■
		自然環境の保全活動に参加している町民の割合	△	△	△
444	自然環境・景観の保全	町の景観が優れていると感じている町民の割合	●	●	●
		1人当たりのごみの排出量(年間)	△	△	△
445	循環型社会の形成	ゴミ減量化・リサイクルに取り組んでいる町民の割合	△	●	●
		不法投棄苦情件数	●	△	●
446	定住化の促進	鏡野町に住み続けたいと思う町民の割合	△	△	●
		人口の社会増減数(転入人口-転出人口)	●	■	■
		町内事業所数	△	△	△
		上水道給水原価(1m ³ 当たり)	●	●	●
447	上下水道の整備	下水道普及率(供用人口/行政人口)	●	△	●
		水洗化率(水洗化人口/供用人口)	△	△	△
		高速インターネットを接続している町民の割合	△	△	△
448	地域情報化の推進	日頃高速インターネットを利用している町民の割合	●	●	△
		町道が安全・快適に通行できていると感じている町民の割合	●	●	△
449	道路網の整備	道路改良率	△	△	△
		道路舗装率	△	●	●
		町営バスなどの利用した人に関して満足している町民の割合	△	●	●
4410	公共的交通機関の充実	町営バス・タクシー利用者数	■	■	■

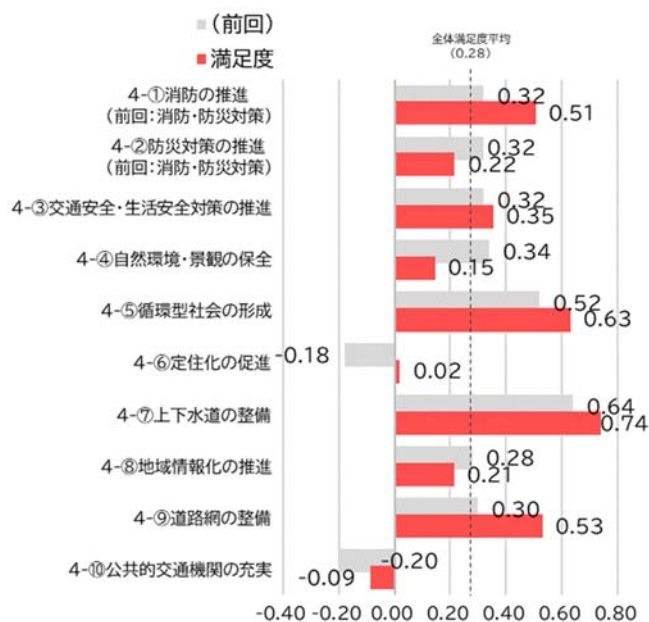
■施策ごとの取組

消防の推進	○ 1年を通じて、団員の研修、訓練の実施を行っている。 ○ 積載車、小型動力ポンプを計画的に更新を行い、消防設備の維持を図っている。 ○ 消防団による定期的な巡回及び広報活動を実施した。 ○ 音声告知放送による火災予防放送を実施した。 ○ 自主防災組織拡大のための広報を実施した。 ○ 防災イベント等で消防団加入促進リーフレットの配布を実施した。 ○ 消火活動における筒先団員の安全対策のため防火衣を購入し配備を行った。
防災対策の推進	○ 各種イベントや出前講座、防災講習会等を行い、自助・共助の促進を図るため、非常時持ち出し袋を各世帯1個配布した。 ○ 総合福祉課及び鏡野町社会福祉協議会と連携を強化し支援体制要領の検討及び保健師等と協議し災害備蓄品の検討を行った。 ○ B&G事業により必要な備蓄品の充実を図った。また、小型重機の操作要員の育成により初動対処能力の助長を図った。 ○ 防災対策について、ホームページによる掲載及び各種イベント等におけるハザードマップを使用し、説明することによる意識高揚を行った。情報係と連携しあらゆる情報発信源を活用したマニュアルの作成を行った。
交通安全・生活安全対策の推進	○ 交通安全、防犯ともに、国、県が実施する各種運動期間等に合わせ、街頭啓発活動等を実施した。 ○ 町内の園、学校の依頼に基づき、交通安全教室の実施に協力した。 ○ くらし安全課が事務局となり、協議会、理事会等を随時実施し、町内における交通、防犯等の状況について情報共有している。 ○ 交通安全対策協議会委員等の啓発活動により、地域ぐるみで意識の向上を図っている。 ○ 区長要望に基づき、交通安全施設の設置に対応している。 ○ 消費者トラブルや不審者情報等について、公式 SNS を活用し、注意喚起を図っている。
自然環境・景観の保全	○ 野焼きに関しては、ホームページ・有線放送で注意喚起を行った。不法投棄に関しては、環境衛生委員、警察・県巡視員と連携を図りパトロールを行った。不法投棄を確認し、新たに投棄されることを防止するため、速やかに撤去した。 ○ 令和元年度より家庭における省エネ機器の普及支援として補助金を創設している。電気自動車の普及に関してV2H充電設備についても補助の対象としたが、申請は0件だった。
循環型社会の形成	○ 生ごみ処理機等の購入補助をすることで生ごみの排出量削減を図った。 ○ ごみ収集において、分別違反のごみ袋等に警告シールを貼付することでごみの分別促進を図った。 ○ プラスチック容器包装袋を値下げし、その他のごみ袋を値上げすることで、プラスチック容器包装への分別促進を図った。 ○ 平成30年度より鏡野町役場、各振興センター及び図書館等に小型家電回収BOXを設け、不燃ごみとして処理される小型家電リサイクルを行い、不燃ごみの削減を図った。 ○ 資源ごみ集団回収団体に奨励金を交付し、再資源化やごみの発生抑制を図った。

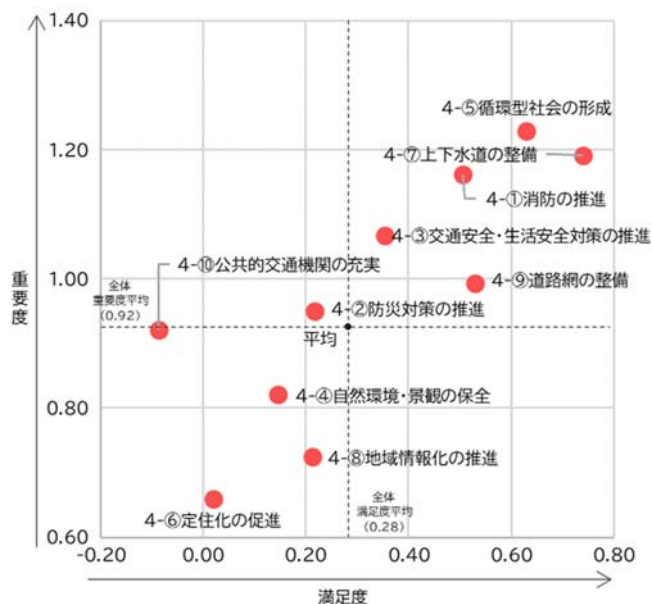
定住化の促進	○ 総合定住相談窓口を継続して開設した。オンラインでの相談にも対応して移住相談件数の増加を図った。 ○ オーダーメイド型の移住体験ツアーを実施し、鏡野町の魅力を伝える施策を実施した。 ○ 各種経済的支援で移住・定住しやすい施策を実施した。 ○ 空き家確保については、令和 4 年度に空き家の調査を行い、売買の希望調査票を行い、空き家バンク登録等の促進を行った。また、地域づくり協議会にも協力してもらう体制作りに取り組んだ。 ○ 町の魅力を増やすために、情報発信として、県内・首都圏・近畿圏で移住相談会を開催した。 ○ 移住施策だけでなく仕事・観光・子育てなど分野横断で推進に取り組んだ。女性に特化した取組はできていない。
上下水道の整備	○ 上水道については、配水池更新事業と合わせて、維持管理等の削減に取り組んでいる。下水道については、公共処理区と農集処理区の統合を行い、維持管理費や施設更新費用の削減に取り組んだ。また、上下水道ともに、県が策定した広域化計画に基づき、市町村の枠を超えての連携に取り組んでいる。 ○ 下水道の普及・水洗化率の向上に努めた。健全な事業運営を図るために、中長期的な経営計画の基本計画策定に取り組んでいる。合併浄化槽については、国費事業を活用し、水洗化の向上に取り組んでいる。 ○ 下水道整備については、令和5年末までに完了。施設の老朽化対策として、上水道については、現在、配水池の更新事業に取り組み、令和7年度末完成予定。下水道については、農集処理場の設備更新事業に取り組んでいる。また、施設の維持管理及び施設更新計画の策定に取り組んでいる。
地域情報化の推進	○ 町ホームページを随時更新した。また転入者があった場合は CATV 加入を案内している。 ○ インターネットに接続している世帯は年々増加傾向にある。 ○ 全国瞬時警報システム(通称:J-ALERT)の情報や町内で火災や災害が発生した場合の情報を、屋外拡声器や各家庭に設置されている音声告知機で提供している。 ○ 65 歳以上の希望者に緊急通報装置・人感センサー・ペンダント型送信機を貸し出し、高齢者等緊急見守りシステムを利用している。 ○ 避難所及び公共施設の一部で公衆無線 LAN(Okayama Free Wi-Fi)のサービスを開始し、災害発生時の情報収集ができる環境が確保し、平時も利便性が向上している。 ○ 有線テレビ放送の通常放送画面で緊急文字情報の表示が可能となった。
道路網の整備	○ 橋梁長寿命化修繕計画により重要度と緊急性を総合的に判断し、優先順位の高い橋梁から修繕を実施した。 ○ 道路パトロールの実施、通行者や地域住民からの情報提供で危険箇所の早期修繕に努めた。 ○ 国県道の未改良区間の事業推進や道路施設の耐久性の強化に対し、積極的な協力を行った。また、地域住民からの要望による要望活動にも積極的に努めた。
公共的交通機関の充実	○ 町営バス等については「高校生等通学助成制度」の改正で定期券通学の促進を図った。 ○ 共同バスについては地元要望からバス停位置の変更など利便性の向上を図った。 ○ GoogleMaps にてバス停と時刻表が確認できる GTFS データを導入した。 ○ 福祉バスの再編はアンケートやヒアリング等で方向性を定めた。 ○ 津山市と連携し、ごんごバスは「マルナカ西循環線」が延伸し、新たにプラントに乗り入れを開始した。

■住民アンケートによる評価

満足度係数の変化



満足度・重要度ポートフォリオ



<アンケート等からみえる状況>

- 「上下水道の整備」については、全施策の中で2番目に満足度の高い項目となっている。
- 生活環境分野の中では「定住化の促進」「公共的交通機関の充実」が全体の満足度平均よりも低くなっており、特に「公共的交通機関の充実」は満足度がマイナス(不満寄り)となっている。
- 「自然環境・景観の保全」については、前回調査時の満足度に比べて大きく減少しており、「消防の推進」「定住化の促進」「道路網の整備」については大きく増加している。
- 重要度が高いに関わらず、満足度が低い「重点改善項目」として「防災対策の推進」が挙げられている。
- 鏡野町環境として“良い”項目として、「自然環境(再掲)」「上・下水道やごみ処理施設などの生活環境施設」が上位1番目、2番目に挙げられている。(報告書 P14、問 6(1))
- 鏡野町環境として“悪い”項目として、「道路・交通の便」が上位2番目に挙げられている。(報告書 P16、問 6(2))
- 今後も鏡野町に住み続けるために必要なこととして、「バス、タクシーなど地域公共交通」が最も高い項目となっている。(報告書 P20、問9)
- 必要な高齢者支援について、「買い物や病院に便利な高齢者用の賃貸住宅の整備」が上位2番目に挙げられている。(報告書 P22、問 10)
- 今の生活で使いやすくしてほしいことについて、「被災時における避難誘導や各避難所の備蓄量などの情報の共有」が上位3番目に挙げられている。(報告書 P32、問 15)
- 必要な地方創生施策・人口減少対策について、「他地域からの移住定住」が上位3番目に挙げられている。(報告書 P45、問 22)
- 避難時に備えた対策について、「非常持ち出し品を準備している」「避難場所の位置を確認している」が半数程度の回答となっている。(報告書 P79、問 24)

■課題の整理

消防の推進	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 防火意識の醸成と組織充足率の維持 ■ 消防設備の充実と消防団員の資質向上 ■ 消防団と自主防災組織との連携による火災予防活動の推進 <解決した課題> ◎ 研修・訓練等を充実している。 <新たな課題のたね> ● 消防設備等の老朽化対応。 ● 自主防災組織と訓練等を通じて連携する仕組みが必要。 ● 加入促進活動は行っているものの、団員の減少に歯止めがかかっていない。
防災対策の推進	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 防災意識の醸成と自主防災組織の育成強化・組織率拡大 ■ 避難行動要支援者の避難支援体制の整備 ■ ハザードマップの周知 ■ 新型コロナウイルス感染症等に対応した新たな災害対応スタイルの構築 <解決した課題> ◎ 情報係と連携しあらゆる情報発信源を活用したマニュアルを作成した。 <新たな課題のたね> ● アンケートでは、重点改善項目として、「防災対策の推進」が重要度が高いにも関わらず満足度が低い項目となっている。 ● 大規模災害が発生した場合の対応要領及び避難支援要領の細部が未協議。
交通安全・生活安全対策の推進	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 団体機関との協力による交通安全の啓発活動 ■ 高齢者事故の防止対策の強化 ■ 交通安全及び防犯対策施設・設備の整備 ■ 空き巣、車上狙い、万引き等に対する防犯意識の醸成に向けた啓発 ■ 消費者被害、特殊詐欺に対応するための取組強化 <解決した課題> ◎ 啓発活動や交通安全教室の実施を継続的に行っている。 <新たな課題のたね> ● 協力団体の構成員の高齢化に伴い、啓発活動の動員が減少傾向にある。
自然環境・景観の保全	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 町民に対する自然環境保全の啓発と意識高揚 ■ 景観保全を目的とした住民団体などへの支援 ■ 野焼きや不法投棄の監視強化による未然防止 ■ 自然エネルギーの活用に対する町民への支援 ■ 電気自動車等の普及に関して、充電スタンド等の整備

	<解決した課題> ◎ 地域環境団体へ、チューリップの球根、桜の苗木等を支給した。 ◎ 野焼きに関しては、ホームページ・有線放送で注意喚起を行った。不法投棄に関しては、環境衛生委員、警察・県巡視員と連携を図りパトロールを行った。不法投棄を確認し新たに投棄されることを防止するため、速やかに撤去した。のや不法投棄を防止するため、告知放送、広報紙による周知及び監視カメラの設置等を行った。 ◎ 家庭用蓄電池への補助を行った。 <新たな課題のたね> ● アンケートでは、鏡野町の“良い”項目として「自然環境」が最も高くなっており、自然環境の維持・保全が求められている。 ● 「自然環境・景観の保全」については、前回調査時の満足度に比べて大きく減少している。 ● 電気自動車の普及に関して V2H 充電設備についても補助の対象としたが申請は 0 件だった。
循環型社会の形成	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 町民や事業所に対する意識改革の促進(ごみの発生抑制、再使用、再生利用) ■ 町が行うごみの発生抑制、再使用、再生利用の取組 ■ 集団回収奨励金制度の見直し ■ ごみ出しが困難な方や、分別方法の違う他自治体からの転入者への対応 <解決した課題> ◎ プラスチック容器包装袋を値下げし、その他のごみ袋を値上げすることで、分別意識を啓発している。 <新たな課題のたね> ● アンケートでは、鏡野町の“良い”項目として「上・下水道やごみ処理施設などの生活環境施設」が2番目に高い項目となっており、引き続き充実を図る必要がある。 ● 農地を持たない方が生ごみ処理機でたい肥化したものの利用先の確保の検討。
定住化の促進	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 鏡野町空き家情報登録制度の有効活用と定住 PR の促進 ■ 定住できる環境づくりの推進 ■ 転入希望者に対する相談体制の充実 ■ すべての人が活躍しやすい地域環境の向上 <解決した課題> ◎ 総合定住相談窓口を継続して開設しました。オンラインでの相談にも対応して移住相談件数の増加につなげた。 ◎ オーダーメイド型の移住体験ツアーを実施し、鏡野町の魅力を伝えている。 <新たな課題のたね> ● アンケートでは、「定住化の促進」の満足度が比較的低く、取組の見直しや充実を図る必要がある。 ● 移住希望相談者を定住に結び付けていく必要がある。 ● 空き家バンクに登録された物件の売買を成立させる必要がある。

上下水道の整備	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 更なる上下水道普及率の向上 ■ 上下水道施設への接続の促進 ■ 安定した清浄な水道水の確保と業務の合理化によるコスト削減 ■ 老朽化した管路等の設備更新 ■ 水道事業会計、下水道事業会計の経営健全化 <解決した課題> ◎ 上水道については、配水池更新事業を行い、水道水の安定的な供給に取り組んだ。 ◎ 下水道については、公共処理区と農集処理区の統合を行い、維持管理費や施設更新費用の削減に取り組んだ。 ◎ 下水道整備については、令和5年度末に完了。 ◎ 配水池の更新事業が令和7年度末に完了予定。 <新たな課題のたね> ● アンケートでは、「上下水道の整備」が全体で2番目に満足度の高い項目となっている。 ● 人口減少に伴う、水道や汚水需要に対する、施設の再構築及び統廃合。 ● 下水道整備地域及び浄化槽区域の接続・設置促進が課題 ● 経営の健全化と老朽化施設の更新・耐震化を行うための財源確保。
地域情報化の推進	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 高速インターネットの利用促進 ■ インフラを活用した、公衆無線 LAN の拡充等による快適な生活環境づくり ■ 移住施策との連携、災害時の情報発信、高齢者見守り等への利用 <解決した課題> ◎ インターネットに接続している世帯は年々増加傾向。 <新たな課題のたね> ● デジタルデバイド対策。
道路網の整備	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 道路・橋梁の老朽化対策(適切な維持管理) ■ 工事コスト及び維持管理コストの上昇に対する懸念 ■ 災害に強い道路づくりの推進 <解決した課題> ◎ 橋梁長寿命化修繕計画により重要度と緊急性を総合的に判断し、優先順位の高い橋梁から修繕を実施。 ◎ 道路パトロールの実施、通行者や地域住民からの情報提供による危険箇所の早期修繕。 ◎ 国県道の未改良区間の事業推進や道路施設の耐久性の強化に対しての積極的な協力。 <新たな課題のたね> ● 未整備箇所における今後の事業推進費の確保。 ● 年々増加する修繕箇所の把握及び対応。
公共的交通機関の充実	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 公共交通の利用促進 ■ 利用しやすい公共交通体系についての検討 ■ 交通事業者、近隣自治体などとの連携強化と運行維持

<解決した課題>

- ◎ 町営バス等については「高校生等通学助成制度」の改正で定期券通学を促進した。
- ◎ 共同バスについては地元要望からバス停位置の変更などで利便性を向上させた。
- ◎ GoogleMaps にてバス停と時刻表が確認できる GTFS データを導入した。

<新たな課題のたね>

- アンケートでは、「公共的交通機関の充実」の満足度が低く、マイナス(不満寄り)となっている。
- 鏡野町の環境として“悪い”項目として、「道路・交通の便」が上位2番目に挙げられており、改善と充実が求められている。
- 近隣市との連携による共同バスの運営維持。

<政策の目的(目指す状態)>

町民が、住民自治に基づく主体的な活動ができるとともに、町民・行政がまちづくりの課題に効率的、効果的かつ迅速に対応できる

■成果指標の達成状況

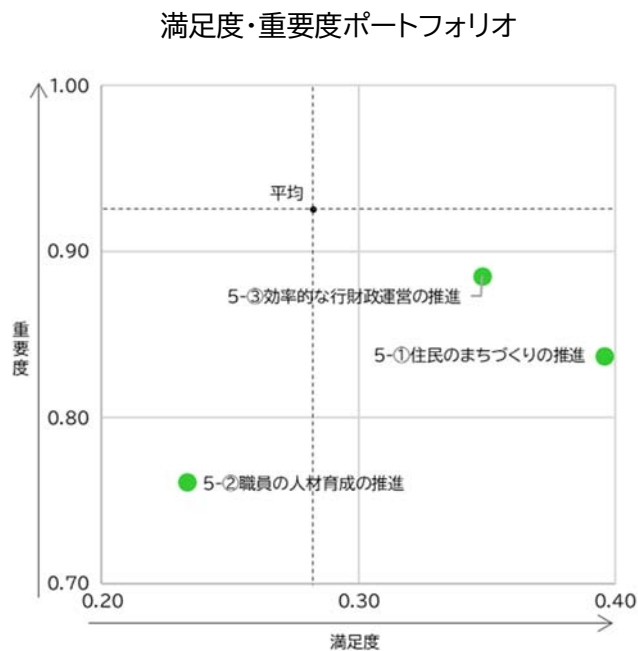
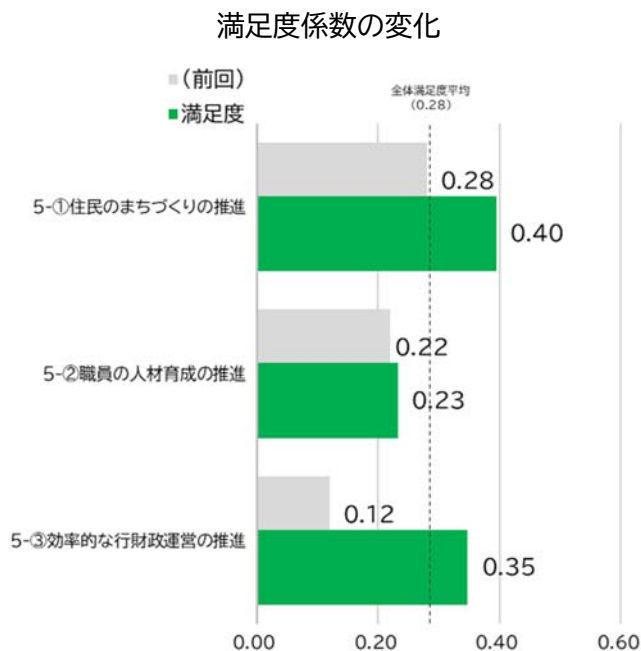
達成:● 達成率 80%以上:△ 達成率 80%未満:■

施策 No	施策	指標	達成状況		
			R3 年度	R4 年度	R5 年度
551	住民のまちづくりの推進	地域で実施されている活動に関心がある町民の割合	△	●	●
		地域で実施されている活動への参画意識を持っている町民の割合	●	●	●
		地域活動等に参加している町民の割合	△	△	△
552	職員の人材育成の推進	役場での用事がスムーズにできていると思う町民の割合	●	●	●
		役場の職員が親切丁寧な対応をしていると思う町民の割合	△	●	△
		職階ごとに求められる姿勢・能力・行動が取れている職員の割合	△	△	△
553	効率的な行財政運営の推進	経常収支比率	●	△	△
		財政力指数	△	△	△
		実質公債費率	●	△	△
		将来負担比	●	●	●

■施策ごとの取組

住民のまちづくりの推進	○ 協議会全体の総意もあり、令和7年度からは第4期未来・希望基金事業をスタートする。 ○ 未来・希望基金を使って各事業を実施している 12 の地域づくり協議会を対象に、意見交換や研修会などを実施してきた。 ○ 「地域おこし協力隊」は 5 年間で 12 名の隊員が活動したが、定住に繋がった隊員は 2 名であった。
職員の人材育成の推進	○ 職員の勤務成績を手当等に反映させることで、能力の発揮につながっている。 ○ メンター制度により新入職員が先輩職員から指導を受けることで、職場での過ごし方や人間関係等の不安解消が図れている。 ○ 適正な定員管理ができています。
効率的な行財政運営の推進	○ 積極的な起債の活用により実質公債費率は悪化しているが、合併債や過疎債など交付税算定に有効なものを選定しているため、負債が増加している反面、交付税の落ち込みが少なく、事業の成果を考察するとここまでは順調に推移している。 ○ 町税や使用料の収納率は向上しているが、金額的には減少している。 ○ 官公庁オークションを利用し、不要となった財産処分を積極的に行っている。また、ふるさと納税にも力を入れ返礼品等を増やしたことにより、令和3年から令和5年の 3 年間分の寄付額よりも、令和6年度、1 年間の寄付額が上回った。

■住民アンケートによる評価



<アンケート等からみえる状況>

- まちづくり分野の中では「職員の人材育成の推進」が全体の満足度平均よりも低くなっている。
- 「効率的な行財政運営の推進」については、前回調査時の満足度に比べて大きく増加している。
- 行政サービスの向上のために必要だと思うことについて、「情報弱者へのサポートの拡充」「公衆無線 Wi-Fi 環境の整備」などが高くなっている。(報告書 P30、問 14)
- 今の生活で使いやすくしてほしいことについて、「待ち時間を短縮したい(役場・病院などでの待ち時間を減らしたい)」「行政関係の手続きが営業時間内に済ませられない(役場や金融機関の営業中に間に合わない)」がそれぞれ上位1番目、2番目に挙げられている。(報告書 P32、問 15)
- 町内会や公民館活動、ボランティア活動への参加については、最も参加が多いもので“町内会”であり、現状半数程度の参加率となっている。(報告書 P34、問 16)
- 地域活動に参加する上で支障になることについて、「仕事をしているので時間が無い」が半数以上を占めて最も高くなっており、次いで「どのような活動があるのか情報が少ない」が続いている。(報告書 P36、問 17)
- 自治会などの地域コミュニティに期待することについて、「緊急事態が起きたときの対応」が最も高く、次いで「防災・防犯などの日常協力体制」が続いている。(報告書 P37、問 18)
- まちづくりへの住民参加手法について、「まちづくり参加の対象年齢を拡げ、子どもから高齢者まで参加できる運営上の工夫を図る」が最も高く、次いで「まちづくりへの提案や提言の機会を増やす(アンケートや意見提案など)」が続いている。ただし、最も高い項目でも回答は3割を切っている。(報告書 P42、問 20)

■課題の整理

住民のまちづくりの推進	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 町民参加の必要性についての町民の理解 ■ 地域の自立に向けた意識の醸成 ■ 地域リーダーの育成 ■ 町民ニーズを的確に把握し、町政に反映していく仕組みづくり <解決した課題> ◎ 未来・希望基金を使って各事業を実施している 12 の地域づくり協議会を対象に、意見交換や研修会などを開催し、住民理解や意識醸成を図っている。 <新たな課題のたね> ● 毎年数名の地域おこし協力隊員の参加があるものの、途中退任もあり、定住に結び付いていない。
職員の人材育成の推進	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 人材育成方針に基づく人材の育成 ■ 鏡野町定員適正化計画に基づく適正な定員管理の実施 ■ 優秀な人材確保とメンター制度(先輩職員が新入職員をサポートする制度)の充実 ■ 人事評価制度と職員研修のマッチング ■ 会計年度任用職員制度に伴う人員管理 <解決した課題> ◎ 定員管理については適正に行っている。 <新たな課題のたね> ● 評価と連動させた研修の実施が必要。 ● 人事評価結果や業務量に応じた適正な人員配置の実践が必要。
効率的な行財政運営の推進	<5年前(後期計画策定時)の課題> ■ 自主財源の確保 ■ 普通交付税算定基準と起債償還を見据えた財政運営 ■ 財源の効率的・効果的な配分 ■ 受益者負担の適正化 ■ 町民により分かりやすい財政状況の公表 ■ 公共施設白書・公共施設等総合管理計画及び個別管理計画の策定による統廃合等再配置の検討 <解決した課題> ◎ ふるさと納税の返礼品拡大による寄付額増。 <新たな課題のたね> ● 施設の改修・改築等による財政圧迫が想定される。 ● 病院建設という大型事業を踏まえて、速やかに、鏡野町の規模に合った予算化が必要。